

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-63C	16-027	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Alcohol intake, drinking patterns, and prostate cancer risk and mortality: a 30-year prospective cohort study of Finnish twins.</p> <p>飲酒および飲酒パターンと前立腺がんのリスクと死亡: フィンランド双生児の 30 年間前向きコホート研究</p>		
執筆者		
Dickerman BA, Markt SC, Koskenvuo M, Pukkala E, Mucci LA, Kaprio J		
掲載誌		
Cancer Causes Control. 2016 Sep;27(9):1049-58. doi: 10.1007/s10552-016-0778-6.		
キーワード		PMID
飲酒、暴飲、前向きコホート研究、前立腺がん、双生児		27351919
要 旨		
目的:		
飲酒と前立腺がんに関する疫学的エビデンスは一貫した結果を示していないため、中年期の飲酒習慣と前立腺がんの発症および死亡リスクの関連を検討した。		
方法:		
フィンランドの双生児を対象とした前向きコホート研究 The Older Finnish Twin Cohort のデータを用いた。対象は平均年齢 40.1 歳の 11,372 人の男性双生児で、1981 年から 2012 年まで追跡調査した。飲酒習慣は 1975 年と 1981 年に質問票を用いて調査した。研究期間中、601 例が前立腺がんと診断され、110 例が前立腺がんにより死亡した。Cox 回帰分析により、体重、喫煙状況、社会階級、教育歴、身体活動を調整して、週当たりの飲酒量および大量飲酒（一度に大量に飲酒すること）の有無と前立腺がんの発症および死亡リスクとの関連を検討した。遺伝的な因子や若年期の環境因子などの潜在的な交絡因子を調整するために双生児間の解析も実施した。		
結果:		
多量飲酒者（168.12g/週以上の飲酒）では、軽度飲酒者（0.12-36.00g/週の飲酒）と比較して、多変量調整後も前立腺がん発症リスクが 1.46 倍高かった [ハザード比(HR): 1.46, 95% 信頼区間(CI): 1.12-1.91]。また飲酒者の中で、大量飲酒者は、そうでない者に比べて有意に前立腺がん発症リスクが高かった [HR: 1.28, 95%CI: 1.06-1.55]。一方、非飲酒者（過去飲酒者含む）では、軽度飲酒者と比較して前立腺がんによる死亡リスクが 1.90 倍高かった [HR: 1.90, 95%CI: 1.04-3.47]。双生児間の解析において、飲酒は遺伝的因子や若年期の環境因子とは独立して前立腺がんリスクと関連している可能性が示唆された。		
結論:		
多量飲酒および一度に大量に飲酒する飲酒パターンは前立腺がんの発症リスクを増加させた。また非飲酒者（過去飲酒者含む）は軽度飲酒者と比較し、前立腺がんによる死亡リスクが増加した。		